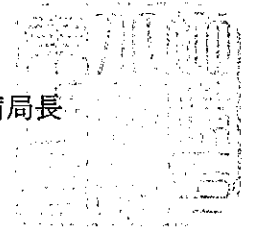


公共工事等における新技術活用システム
事後評価結果通知書

国東整施企第92号
平成26年 3月 4日

有限会社 土江重機 殿

国土交通省
東北地方整備局長



平成22年5月11日付けで申請のありました技術について、新技術活用評価会議における評価の結果を様式V-3 のとおり通知します。なお、評価結果については NETIS に掲載します。

記

1. 技術名称 : エンジン出力制限カバー(eco-8)
2. NETIS登録番号 : CG-100005
3. 評価結果 : 様式V-3 のとおり

異議申し立てについて

上記について異議がある場合は、事後評価結果を通知した日の翌日から起算して10日以内に整備局長あてに異議理由を明示した書面を提出することにより、異議申し立てを行うことができます。

(提出先)

東北地方整備局
新技術活用評価会議事務局

活用効果評価結果

通知・インターネット版

様式V-3

平成25年度

東北地方整備局 / 新技術活用評価会議

開発目標	経済性の向上、地球環境への影響抑制、省資源・省エネルギー														
新技術登録番号	CG-100005-A			区分				製品							
分類	土工 - 土工 - その他														
新技術名	エンジン出力制限カバー(eco-8) (燃料削減・CO2排出量削減・エコハチ)														
比較する従来技術(従来工法)	ダイヤル式アクセルのバックホウ														
新技術の概要及び特徴	一般に使用されているバックホウのエンジン回転数を、約80%に抑制するカバーであり、従来のバックホウ作業はアクセル全開での運転操作が多く、このカバーを装着すれば簡単且つ確実にエンジン回転を抑え、燃料削減・CO2削減につながる技術。														
活用効果評価	所見	<p>従来技術に比べて活用の効果は同程度である。 なお、下記の理由により、環境について従来技術より優れた評価を得ている。 環境：エンジン出力を制限することにより、排ガス、騒音等が減少し、燃料消費量の低減が期待できる。</p> <p>【安定性】 現場での活用条件の違いがあっても、各々従来技術と同等以上の評価を得ている。</p>										<p>項目の平均(点)と従来技術(従来工法)の比較</p>			
	留意事項	<ul style="list-style-type: none"> バックホウによっては、カバーを装着できない機種がある。 アクセル出力100%が必要な作業の時は使用できないので注意が必要。 													
活用効果調査結果	対象工事	1	道路改良工事	「北海道開発局」 従来技術：ダイヤル式アクセルのバックホウ							H22				
	2	現況復旧工事	「近畿地方整備局」 従来技術：ダイヤル式アクセルのバックホウ							H23					
	3	築堤工事	「中国地方整備局」 従来技術：ダイヤル式アクセルのバックホウ							H22					
	4	築堤工事	「九州地方整備局」 従来技術：ダイヤル式アクセルのバックホウ							H22					
	5	築堤工事	「九州地方整備局」 従来技術：ダイヤル式アクセルのバックホウ							H22					
	6	法面工事	「九州地方整備局」 従来技術：ダイヤル式アクセルのバックホウ							H22					
	7	道路改良工事	「中国地方整備局」 従来技術：ダイヤル式アクセルのバックホウ							H22					
	ケース番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	項目の平均	従来技術(従来工法)	備考
	項目	H22	H23	H22	H22	H22	H22	H22							
	施工時評価	経済性	C	C	C	C	C	C	C				C	C	
工程		C	C	C	C	C	C	C				C	C		
品質・出来形		C	C	C	C	C	C	C				C	C		
安全性		C	C	C	C	C	C	C				C	C		
施工性		C	C	C	C	C	C	C				C	C		
環境		B	B	B	B	B	B	B				B	C		
施工時評価点		C	C	C	C	C	C	C				C	C		
追跡調査	-	-	-	-	-	-	-				-	-			
総合評価点	C	C	C	C	C	C	C				C	C			
活用効果評価	項目	評価結果		内容		補足		判定区分							
	成立性	技術として成立している		技術における機能、品質、性能などを実験や理論的なもの等での確認・証明の有無		技術として成立している		技術として成立していない							
	優位性	従来技術と同等		従来技術に対して優れている度合い		A 従来技術より極めて優れる B 従来技術より優れる C 従来技術と同等 D 従来技術より劣る									
	安定性	高い安定性を有す		各評価項目の判定結果による総合評価		高い安定性を有す 安定性に問題がない 安定性が確認されない									
	現場適用性	-		技術の優位性が高いものの件数の多寡		広い 特に広いとまではいえない									
	区分	従来技術に比べて活用の効果は同程度である。また、活用の条件の違いに対する評価の安定性を有す。		-		-		-							
	追跡調査の必要性	無し		-		-		-							
	追跡調査														

平成26年2月24日